

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	サポートセンターみらい		公表日 令和8年 2月 20 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	5	・面談室や作業室を利用し活動していました。	・静かな環境で課題や宿題を行っていました。また、子どもの様子を見ながら対処していました。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	・事業所内のグループホームの職員に送迎を依頼する事もありました。	・定員に対して、職員数は足りてますが、強度高度障がい児2名利用の為、職員がマンツーマン対応する時もあるので、不足する時もありました。また夕方の送迎後の職員が多かった。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	・玄関はスロープ、室内はフラットの床でバリアフリーの設備です。	・トイレには手すり等がない為検討していきます。 ・児童にわかりやすいとは言い切れない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・環境的には綺麗です。又毎日子ども達と一緒に掃除タイムを設けていました。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・課題、宿題を行う時は決まった場所で行うが、その日の体調具合や不穏状態で児童の方から、場所変えの希望もありました。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	・担当児以外の職員も参加して意見交換をしていました。	・振り返りは行っているが、聞いてない職員がいるので、再度会議等で周知いたします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員には、集計したアンケートを回覧し会議等で話し合い、改善の努力はいたしました。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・何でも言える環境作りはしていたので、様々な意見がでてました。	・改善しようとしているが、理解できていない職員がいる為統一した支援になっていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		・第三者を入れての評価は行っていません。今後の課題として検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・法人内の研修に参加していました。 (例えば:新人研修、交通安全、虐待、感染BCP等)	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・法人内のホームページに掲載、事業所の玄関先に掲示していました。	

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・親御さんとの面談や相談支援事業所からのサービス支援計画を基に作成していました。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・支援計画の作成時は、全職員参加し意見交換をいながら共通理解をしていました。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・標準化されたツールを使用した事はなく独自のツールで行っていました。	・標準化されたツールを使用することが無いため今後、職員間でツールに関しての話し合いをしていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・相談支援事業所のサービス利用計画に沿った計画作成していました。 ・親御さんからの悩み事、相談に関しては「療育相談」として受け付けていました。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・ケース会議を行い全員の意見交換をしながら立案してました。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・固定化しない様にしていますが、親御さんのニーズによっては、固定化する事もあります。（特に生活面）	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	・床拭きをリレー方式で行ったり、ボール運びゲーム等行いましたが、回数的には少なかったです。	・集団活動をスケジュールに組み込んだ機会がほぼ無いので、今後活動に取り込んでいきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		7	・勤務体制や送迎で職員不在の為、前日の支援報告は翌日の朝礼で申し送りをしていました。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・長期休暇時は送迎や勤務の状況で朝の申し送りは出来ない為、申し送りノートに職員は記入する事にしていました。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・契約時から6ヶ月ごとに年2回モニタリングは行っていますが、ケース会議で担当から見直しの報告があった場合は検討をしていました。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	・様々な個別活動をする中で基本活動を取り入れていました。	・外部参加型の交流は「みらい祭り」のみです。今後検討していきます。	

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・宿題は、無理強いせず出来る所まで行っていますが支援員の方からやり方を教えたりせず、わからない時は親御さんに教えて貰う様にしていました。	・製作、遊びに関しては本児の希望を聞き入れていました。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・一度、利用担当職員とケース内容を確認し会議には児発管が参加していました。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・児童相談所、地域の保健師、学校の担任等で問題行動児についてのケース会議を行いました。	・問題行動のある児童については今後も様々な機関を利用していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・各学校から年間予定表、毎月下校時間表を頂き送迎業務をしていました。トラブルがあっても適切な対応をしていました。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・法人内の発達支援センターからの利用児に関しては、情報交換をしていました。他事業所からの利用児に関しては、電話等での情報交換をしていました。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		・就職先の事業所職員、本人、親御さん、学校の先生、相談支援員、児発管を含め担当者会議を行いました。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2	・今年度は法人のスーパーバイザーからの助言や、訪問相談はありませんでした。	・保護者会の開催は無いが、みらい祭りで保護者同士や職員が地域の人達と関わりを持つ場面がありました。 ・保護者会については今後検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		・年1回「みらい祭り」で地域の方々と交流する機会を持ちました。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7	・役場に尋ねた所今年に開催しますとの事でした。	・開催した時は参加します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・日々の活動報告は連絡帳や送迎時に親御さんに話しをし、親御さんからの要望も聞いていました。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・当法人の子ども発達支援センターで開催している、親御さん向けの「療育相談」に職員は参加していました。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・丁寧かどうかは、親御さん次第だと思いますが児発管は丁寧に行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・意思疎通できる子どもさんとは面談時お話をし意見も聞いています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・お迎えに来ている親御さんには、計画書を見せ、送迎を使っている子どもさんには、電話で説明していました。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・親御さんから子どもに対しての悩み相談が多々あり、連絡帳に書ききれない時は電話で療育相談として行っていました。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	・「みらい」には父母の会はありませんが法人内の事業所「虹まつり」には父母の会も参加しているので協力していました。 ・「みらい祭り」で親御さんや町内の子ども達と交流していました。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・親御さんからの苦情はありませんでしたが、子ども同士のトラブルがあった場合は親御さんに経緯を報告していました。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・年4回「みらいだより」を発行し法人のホームページにと玄関先の掲示板に掲載し、親御さんにも配布していました。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・退職や、異動の際は個人用のUSBを返納していました。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・障がいの特性や、性格、癖等を見ながら接していました。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		・「みらい祭り」の時は地域のの人達を招待していました。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・月1回の避難訓練、安全訓練、BCPを順番に行い親御さんには報告書を配布していました。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	・月1回の避難訓練案にBCPも取り入れてました。（簡易トイレ、アルミブランケットの使い方等）	・回数を増やしていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・てんかんのある児童については、親御さんから症状や対処法を聞いていました。 ・薬投薬児に関しては、投薬依頼書を配布していました。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	・地域の消防署主催の研修や法人主催の研に参加し訓練に生かしていました。	・安全管理が十分にされてるとは言いきれない。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・訓練の結果の報告書を親御さんに配布していました。	

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	2	・ヒヤリハットを記入する職員は少ないが再発防止の為朝の申し送りで周知していた。	・ヒヤリハットを記入する様周知する。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・法人内の研修や第三者委員の方を交えた会議を年4回開催しケース会議で周知していました。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		・契約時親御さんには、説明し身体拘束書を記入して頂いてました。	